

造血幹細胞

血小板

BANK! VOL. 32  
BANK!

マンガでわかる!

# さい・帯血移植 骨髓移植

赤血球

白血球

家族からドナーが見つからない患者さんが移植を受けられるように

**公的さい帯血バンクと骨髄バンク**があります

ですが、誰にでも提供できるわけではありません

白血球をはじめとするH1A型には**H1A型**があります

造血幹細胞を移植するためにはH1A型を合わせる必要があるんですよ

家族ではない人と一致する確率は**数百分の1**なんです！

**1**

数百～数万

だから、公的さい帯血バンクと骨髄バンクは多くの方からのさい帯血提供と骨髄ドナー登録をしています！

私もシェアしよう！

さい帯血バンク

骨髄バンク

抗がん剤や放射線を使用して病気になる細胞をなくす治療が効かない、または再発してしまった場合には、健康なドナーの造血幹細胞を移植することで正常な**血液を作る力を回復**させることが期待できます

造血幹細胞

白血病

血小板

赤血球

放射線治療

抗がん剤治療

**造血幹細胞の採取方法は3種類**

**末梢血幹細胞採取**

白血球を増やす薬を数日間注射して、血液中に流れ出した造血幹細胞を腕の血管から採取します

※腕の血管から採取できない場合は、足の付け根の血管から採取することもあります

**骨髄採取**

全身麻酔をかけて骨盤の骨（腸骨）の骨髄から採取します

**さい帯血採取**

赤ちゃんとお母さんを結びへその緒と胎盤を流れる血液（さい帯血）には造血幹細胞が多く含まれていて、出産時にへその緒から採取します

※母子に痛みやリスクはありません

詳しくはこちら▶

◀詳しくはこちら

詳しくはこちら▶

◀詳しくはこちら

**さい帯血移植 骨髄移植**

マンガでわかる！

説明員

学生たち

白血ってどんな病気ですか？

ドナーの助けが必要って聞いたことはあるけど

どうやって助けるんですか？

一緒に見てみましょう！

**異常**

骨髄

複製

血管

赤血球

白血球

血小板

**正常**

骨髄

複製

血管

赤血球

白血球

血小板

私たちの骨のなか（骨髄）には**血液細胞**を作る元となる**造血幹細胞**があります

造血幹細胞が正常な血液を作ることができなくなると、重症の**貧血**、**出血**が止まらない、**感染症**にかかりやすいなどの症状が現れます

年間数万人が白血病をはじめとする正常な血液を作ることができない病気と診断されています

# 公的さい帯血バンク／骨髄バンク **Q** & **A**

**Q**

どうやって公的さい帯血バンクに提供／骨髄バンクに登録するの？

**A**

さい帯血は、公的さい帯血バンクと提携した産科施設でのみ提供できます。現在、さい帯血の提供ができる産科施設は全国に115施設あります。(2024年11月末時点)

詳しくは  
こちら



骨髄バンクのドナー登録は、骨髄ドナー登録会や全国の献血会場、一部の保健所で受付けています。

登録窓口は  
こちら

**Q**

HLA型ってなに？

**A**

ばい菌などから体を守るために自分と他者を区別する目印です。白血球をはじめとする全身の細胞についています。HLA型が合っていないと、健康な造血幹細胞を移植しても、体の中でうまく働けないことがあります。

HLA型が合っている



／よろしくね！／



／こちらこそ／

HLA型が合っていない



／違う型だ！／

移植された  
造血幹細胞

患者さんの  
細胞たち



／敵だ！／

# 提供経験者の声

さい帯血、骨髄提供についてリアルな声をお届けします。



さい帯血提供経験者  
女性

## 新しい命が生まれることで救える命

私は、出産した際にさい帯血を提供させていただきました。私自身、以前からさい帯血を寄付することに興味を持っており、日頃から新しい命が生まれることで救える命があるということはとてもすてきなことだと感じていましたので、提供することができて良かったです。

実際のさい帯血採取では採取のために注射や麻酔をするといったことがないため、赤ちゃんと私に負担は全くなく、出産することだけに集中できました。このさい帯血が移植を待つ患者さんのもとに届いて治療に役立ってくれたらと願っています。このような貴重な経験をこどもがいつか大きくなったときに、“あなたのさい帯血が誰かの命を救ったかもしれない、あなたはすてきな贈り物をしたのよ”と伝えたいです。



骨髄提供経験者  
30代・男性

## 登録後すぐに適合して...

職場に献血バスが来ている時に登録して1か月後には適合通知を受取りました。

これも何かのご縁と思い、上司に提供について相談したところ「患者さんのために頑張れ」と後押しいただけました。検査の結果、提供することが決定。手続きもスムーズに進み、提供も全身麻酔であつという間に終わりました。何の感慨もなく日常生活に戻ったところに、患者さんから「ドナーさんのおかげで諦めずに治療に挑めた。これから人のためになれるように頑張りたい」とお手紙をいただき、患者さんから逆に元気をもらえたように思います。誰かの命を救うというドナーにも大きな体験となる骨髄バンクの活動が、もっと多くの人に広がることを願っています。

※(公財)日本骨髄バンクを介して提供から2年の間に2回まで、患者さんとドナー間の手紙のやりとりができます。必ず患者さんから手紙が届くわけではありません。

造血幹細胞事業広報誌BANK!BANK!では  
“こんなことが知りたい!”という声を募集しています。

回答所要時間は  
1～2分です。

**ぜひこちらから、アンケートにご協力ください! ▶▶▶**

